



2022年3月期決算補足説明資料

証券コード：2108 日本甜菜製糖株式会社

2022年5月13日



1. 【当期の業績 増収増益】

- ・当期は砂糖事業、飼料事業の売上増加により増収増益。
- ・政策保有株式の売却による特別利益の計上も寄与。

(詳細は5ページ以下をご参照下さい)

2. 【自己株式を購入】

2022年2月に53万株を購入いたしました。

(発行済株式総数の3.46%)

3. 【次期業績予想】

砂糖消費量の減少とエネルギー価格の高騰により、
次期の業績は厳しい見込みとなります。

(詳細は13ページ以下をご参照下さい)

4. 【東証市場再編】

4月4日より東証プライム市場に移行しました。



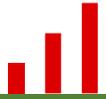
1. 決算概要 5ページ～
2. 次期の業績予想 13ページ～
(第1次日甜グループ中期経営計画最終年度)
3. トピックス 17ページ～
4. 参考資料 24ページ～



※「てん菜」は、「ビート」とも呼ばれる砂糖の原料となる植物です。

北海道の十勝、オホーツク地方で主に栽培されています。

砂糖を抽出した後の繊維分はビートパルプと呼ばれ牛用の良質な飼料となります。



1. 決算概要



決算概要

- 砂糖事業、飼料事業の価格上昇に伴う売上高の増加
- 営業利益は前年比 + 340百万円、計画比 + 429百万円
- 特別損失(関連会社株式売却損675百万円、減損損失473百万円など)計上、特別利益(株式売却益1,494百万円など)計上

単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期			
	通期実績	通期実績	前年同期比	達成率 ※ 1	当初通期計画 ※ 1
売上高	54,792	58,492	6.8% ※ 2	102.6%	57,000
売上原価	38,422	43,216	12.5% ※ 2	—	—
売上総利益	16,369	15,276	△6.7%	—	—
販売費及び一般管理費	14,479	13,046	△9.9% ※ 2	—	—
営業利益	1,889	2,229	18.0%	123.9%	1,800
売上高営業利益率	3.4%	3.8%	—	—	3.2%
経常利益	2,349	2,818	20.0%	122.6%	2,300
売上高経常利益率	4.3%	4.8%	—	—	4.0%
当期純利益	1,642	1,975	20.3%	131.7%	1,500

※ 1 達成率は2021年5月11日公表の当初通期計画の数値をもとに計算しております。なお、連結業績予想は2022年2月9日に修正しております。

※ 2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しております。これにより、販売奨励金・リベート等の顧客に支払われる対価は、従来、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。そのため、売上高、売上原価、販売費及び一般管理費が減少しております。



セグメント別 砂糖事業

単位：百万円
増減

	2021/3期	2022/3期	増減
売上高	35,339	37,809	+2,470
営業利益	▲716	▲331	+385

- 売上高が前期比7.0%増、営業損失が減少
- コロナ禍により砂糖消費量が減少
- 原料糖在庫の増加に伴い保管費の増加
- ビート原料糖のたな卸評価損は減少

売上高

単位：百万円



- 売上高はてん菜の豊凶、海外砂糖相場、国内砂糖消費量等、外部要因の影響大
- 一定の数量を超えるビート糖は、安価なビート原料糖として販売
- 国内消費量の減少により、ビート原料糖の販売量が増加し、売上高は減少傾向

営業利益

単位：百万円



- ビート原料糖は販売価格が低く、期末在庫量が増えるとたな卸資産評価損が拡大

※会計処理方法の変更により

売上高2,175百万円、営業損失63百万円減少



セグメント別 食品事業

単位：百万円

	2021/3期	2022/3期	増減
売上高	2,225	2,350	+124
営業利益	23	▲21	▲44

売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



- イーストの売上は、コロナ禍の影響があるものの前期とほぼ同等
(生イースト増、ドライイースト減)

- オリゴ糖の販売が増加

※清水バイオ工場の生産設備について収益性が低下したため減損損失414百万円を特別損失に計上

- イーストはほぼ販売数量を維持
- オリゴ糖含有液状甘味料の拡販により売上の確保に努めている

- オリゴ糖等食品素材の販売回復が課題
- フラクトオリゴ糖の拡販に努める

※会計処理方法の変更により

売上高13百万円、営業損失 6 百万円減少



セグメント別 飼料事業

単位：百万円

	2021/3期	2022/3期	増減
売上高	10,022	11,253	+1,231
営業利益	1,164	1,321	+157

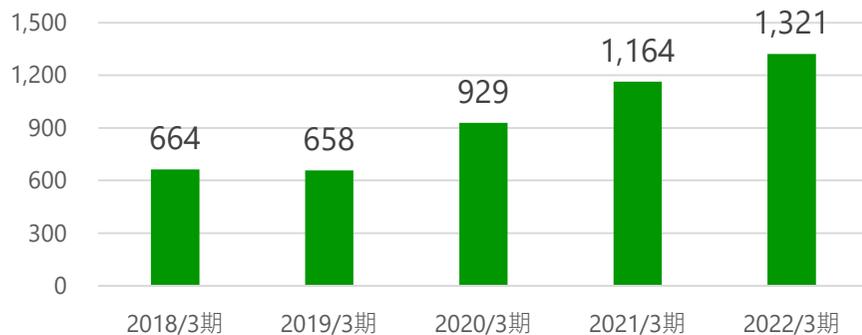
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



- 配合飼料売上数量は増加、販売価格上昇、販売費減少
- 原料てん菜の収量増に伴うビートパルプ増産
- 肉牛用の販路拡大
- 機能性のある独自商品を継続的に市場へ投入
- ビートパルプ生産量はてん菜の豊凶に左右
- とうもろこし等原料価格が製造コストに大きく影響

※会計処理方法の変更により

売上高628百万円、営業利益7百万円減少



セグメント別 農業資材事業

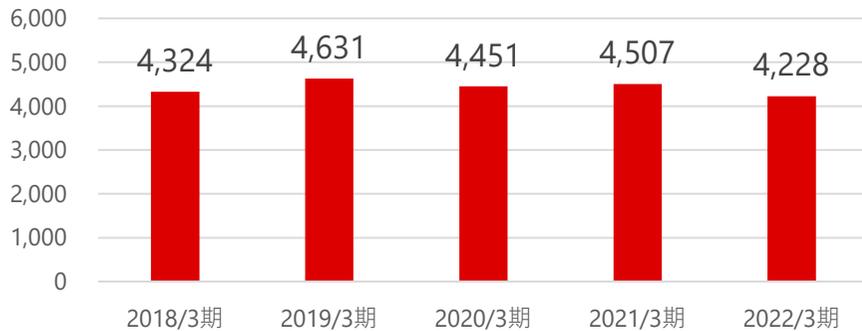
単位：百万円

	2021/3期	2022/3期	増減
売上高	4,507	4,228	▲279
営業利益	470	190	▲279

- 直播拡大によりビート用紙筒販売が減少
- そ菜用紙筒の売上減少
- 移植機、培土の売上も減少
- 輸出向け紙筒在庫の評価損計上

売上高

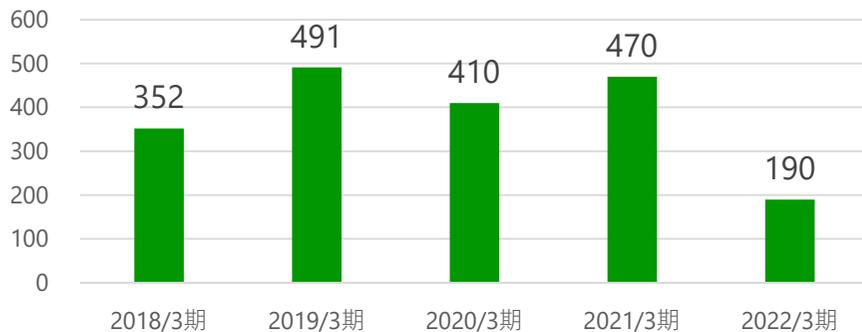
単位：百万円



- ビート用紙筒の売上は減少の趨勢
- ねぎ用を主としたそ菜用紙筒で売上を補完、海外展開も積極的に推進
- ビート用移植機は、年度により受注数量の変動が大きい

営業利益

単位：百万円



- ビート用紙筒の減少を、そ菜用紙筒、農業機材の販売で利益補完、増益を図る
- 2019/3期はビート苗生産設備の受注、ビート用移植機受注量の増により大幅増益

※直播：育苗ポット等を使用せず、直接田畑に種をまくこと

※会計処理方法の変更により

売上高14百万円、営業利益7百万円減少



セグメント別 不動産事業

単位：百万円

	2021/3期	2022/3期	増減
売上高	1,510	1,549	+39
営業利益	866	968	+102

- 一部物件の稼働率の増
- コスト削減もあり、収益改善

売上高

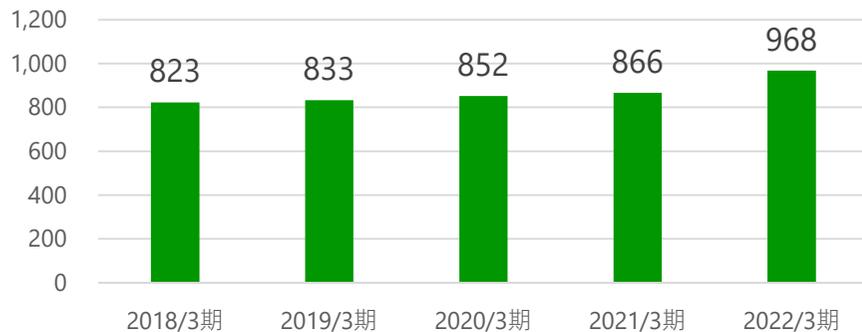
単位：百万円



- 収益物件として、新規オフィスビル取得に向けて検討中

営業利益

単位：百万円



- 各テナントとの友好的な関係の維持に努める

※会計処理方法の変更により

営業利益2百万円減少



セグメント別 その他の事業

単位：百万円

	2021/3期	2022/3期	増減
売上高	1,186	1,301	+115
営業利益	79	94	+15

- スポーツレジャー施設、ガソリンスタンドの売上が回復、貨物輸送増
- 子会社2社が増収

売上高

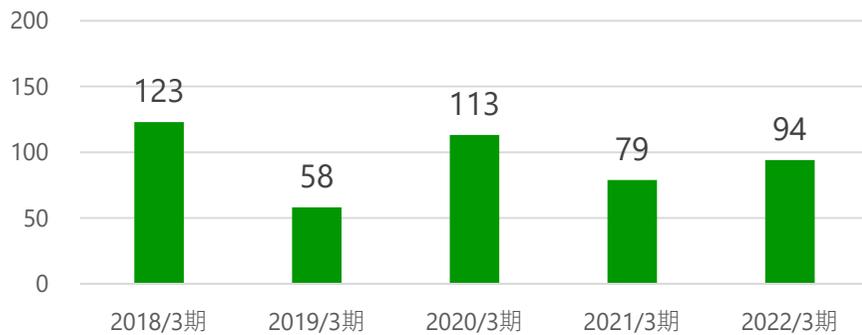
単位：百万円



- スポーツレジャー施設、書籍は経済動向に左右される傾向が大きい

営業利益

単位：百万円



- 農産物の豊凶により輸送請負量が増減

※会計処理方法の変更により

売上高66百万円減少



2. 次期(2023年3月期)の業績予想 (第1次日甜グループ中期経営計画最終年度)



次期の業績予想について

13

- ・ 砂糖消費量は減少傾向にあり、国産ビート糖の需給バランスが崩れている。
- ・ エネルギー価格の高騰により製造コストが著しく増加、業績の悪化を予想。
- ・ コスト削減を推し進めるとともに、適正価格での販売に努める。

単位：百万円

	2022年3月期		2023年3月期			
	第2四半期 (累計) 実績	通期実績	第2四半期 (累計) 計画	通期計画	第2四半期 前期比	2022年 3月期比
売上高	26,197	58,492	28,000	62,000	6.9%	6.0%
売上原価	18,688	43,216	—	—	—	—
売上総利益	7,509	15,276	—	—	—	—
販売費及び一般管理費	5,908	13,046	—	—	—	—
営業利益	1,600	2,229	900	△1,100	△43.8%	—
売上高営業利益率	6.1%	3.8%	3.2%	△1.8%	—	—
経常利益	1,882	2,818	1,100	△700	△41.6%	—
売上高経常利益率	7.2%	4.8%	3.9%	△1.1%	—	—
当期純利益	652	1,975	800	△500	22.5%	—



第1次中期経営計画の目標は2022年3月期で達成するも、次期業績は厳しい見込み。

第1次日甜グループ中期経営計画

2021年3月期～2023年3月期

第2次日甜グループ中期経営計画

2023年4月以降（予定）

- ・省力化、効率化、環境・品質対策を通じて、砂糖事業のコスト低減を目指す
- ・第2の柱として、食品事業（ドライイースト、オリゴ糖）、飼料事業（配合飼料）、農業資材事業を成長事業と位置づけ

引続き砂糖事業のコスト削減と成長事業の伸長を目指します。

単位：百万円

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	中期計画目標
売上高	57,021	54,792	58,492	58,300
経常利益	2,085	2,349	2,818	2,700
当期純利益	1,340	1,642	1,975	1,830
売上高経常利益率	3.7%		4.8%	4.6%
株主資本利益率（ROE）	2.0%		2.9%	2.6%

※2023年3月期は目標を大幅に下回る見込み



基盤事業

砂糖事業

食品に対する多用なニーズや食品事業環境への変化へ柔軟に対応すべく、食品全般を一元的に取り扱う体制構築を目的として販売部並びに食品事業部を統合し2022年4月より新たに食品販売部を設立
食品全般の価格が上昇する中、付加価値商品の提案を進める

不動産事業

新規物件として、オフィスビル物件の取得に向け検討

“第2の柱” 成長事業

食品事業

燃料費の高騰が見込まれるが、適正価格での販売に努め、収益確保を図るとともにオリゴ糖等の拡販により売上増加を目指す

飼料事業

穀物相場の高騰が見込まれる中、国産のビートパルプ需要が急速に高まる大規模酪農家の飼養形態に応じた銘柄の販売、DFAⅢを配合した銘柄の拡販

農業資材事業

原材料の高騰に伴い価格改定を検討
紙筒の輸出のための有機認証の早期獲得を目指すとともに販売を強化、更なる拡販を目指す
簡易移植機「ひっぱりくん」の動力ユニット／トラクター直装ユニットを拡販



3.トピックス



当社は2021年1月にDM三井製糖HD(株)と資本業務提携を締結しております。
2022年3月期は、資本業務提携の目的の一つである効率的生産体制の構築に向けて取り組みを進めました。

○関連会社株式を売却

第二四半期決算において、当社が保有する関門製糖(株)株式の全てをDM三井製糖HD(株)の子会社である大日本明治製糖(株)に売却。

特別損失675百万円を計上しました。

(当社の精製糖事業は株式売却後も関門製糖(株)に製造を委託しております。)

○2022年3月期、2023年3月期において芽室製糖所の受託生産のための工事を実施いたします。

- ・DM三井製糖HD(株)の子会社である北海道糖業(株)の本別製糖所の閉鎖により同社原料の一部を2023年10月から受け入れ、砂糖の受託生産を行うため協議を進めるとともに、当社芽室製糖所において受託生産に必要な設備投資を実施します。



○製糖所における環境対策

ビート糖を効率よく製造するためには大規模な設備による大量のエネルギー消費が必要となります。当社グループでは、持続可能な国産ビート糖業の発展のため、環境負荷低減を考慮し、省エネ、CO₂削減、排水処理に取り組んでおります。



芽室製糖所

○今期導入の環境対策のための投資一覧

項目	事業所	実施年度	概要	効果
ガス焚きボイラ導入	芽室製糖所	2021年度 導入済み	負荷変動吸収用に 貫流ボイラ導入	CO ₂ 削減 4,000t-CO ₂ /年
非化石証書電力採用	帯広事業所 ビジネスセンター	2021年度 導入済み	実質再エネ電力に切替	CO ₂ ゼロカウント 600t-CO ₂ /年
木質バイオマス燃料 混燃試験	美幌製糖所	2021年度 試験実施	ボイラで混焼試験 運転に支障ないこと確認	木質バイオマス混入分 のCO ₂ 削減

会社HP CSR情報にESGデータを記載しております。



○認知症サポーター養成講座の開催

日本甜菜製糖健康保険組合と共同で「認知症サポーター養成講座」を当社グループの全役員が受講するよう順次開催しております。

本講座は、地域で暮らす認知症の方やその家族を、見守り支える応援者を養成することを目的としておりますが、相手の話に耳を傾けることや、必要な配慮を行うことも学ぶことができる良い機会にもなりました。

地域と密接に関わる一企業として、一人一人の意識向上を図り、誰もが安心して暮らせる社会の実現に貢献できるよう、取り組みを進めてまいります。



3月16日 東京本社にて

○牛乳消費拡大への協力

コロナ禍による牛乳消費の減少により牛乳廃棄が懸念されておりますが、当社グループでは牛乳消費に少しでも貢献できるよう、牛乳や乳製品を購入し、請負業者を含む当社グループ全役員に配布いたしました。



2022年1月、当社グループが目指す道標として、「日甜アグリーン戦略」※を掲げることと致しました。

将来の当社事業の方向性として、「てん菜糖業」から「てん菜産業」への飛躍を図ることと、農業を基盤とした成長事業の展開を考えております。

「日甜アグリーン戦略」で諸課題にチャレンジし、持続可能な食料システム構築と新たな価値の創造を目指し、多くの方に支持され続ける企業に成長してまいります。

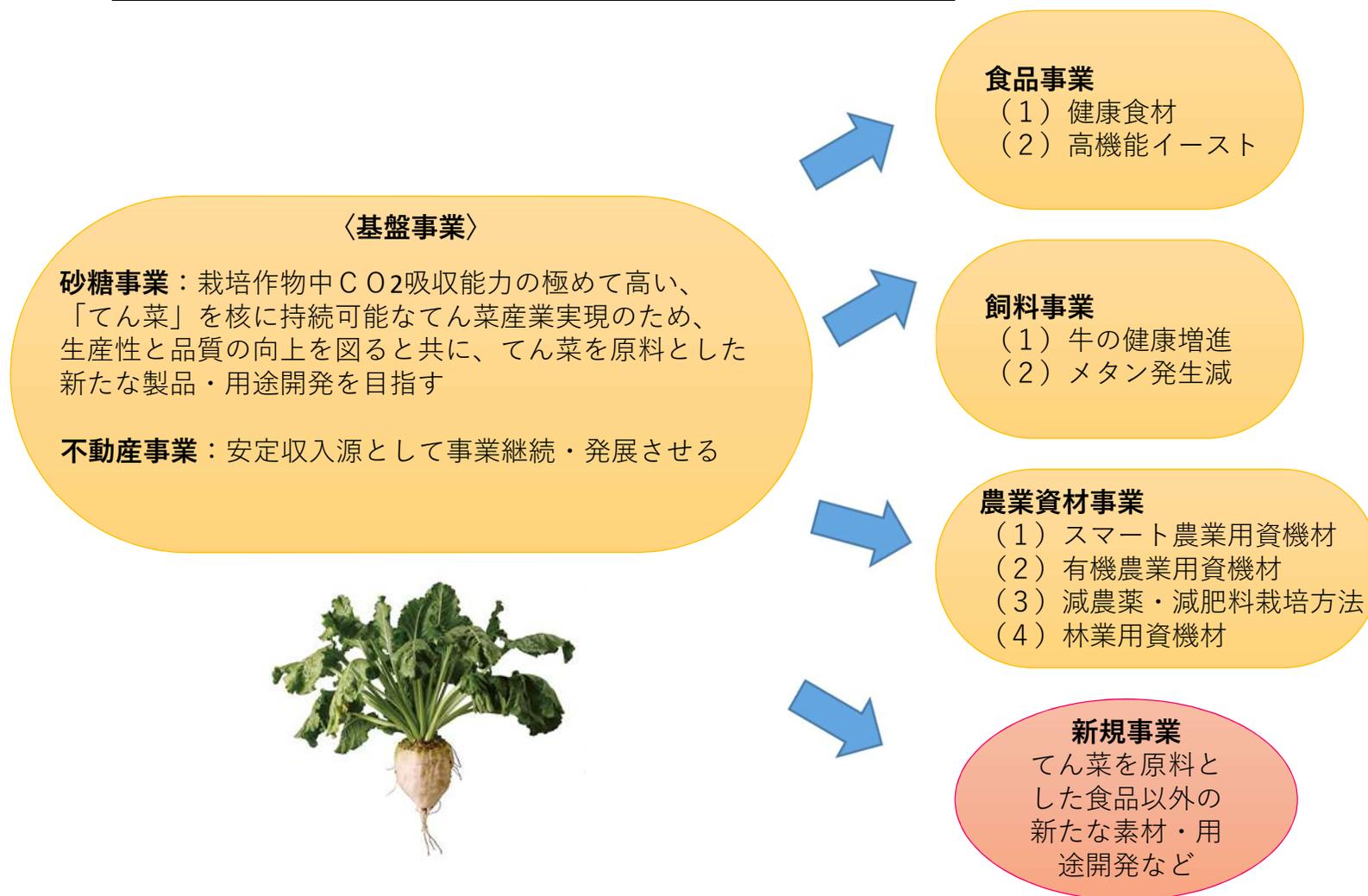
詳しくは当社HPをご参照下さい。

※「アグリーン」とは「アグリカルチャー」と「グリーン」を掛け合わせた造語です。



1. 調達作物・各種作物栽培指針並びに新たな製品開発方針

「てん菜糖業」から「てん菜産業」への飛躍を図る



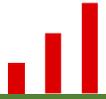


2. 生産から流通までの全工程における取組方針

- 原料輸送・貯蔵・製造・製品保管・製品輸送・販売において、効率化を目指し、省エネ・省人省力・省資材化を図り、製造費・販売費を低減する。

3. カーボンニュートラル、環境負荷低減の取組方針

- 各工場・各事業所・不動産事業等で使用する電力・燃料の脱炭素化を目指す。
- 各工場・各事業所から排出される産業副産物の有価物利用を促進(資源の循環利用)。
- 社用車、社用農業機械などの使用燃料の脱炭素化を目指す。
- 当社製品に使用される化石燃料由来のプラスチック・ビニールなどの包装・容器資材類について、削減並びに代替資材類の使用を目指す。



4. 参考資料



会社概要

24

社名	日本甜菜製糖株式会社（にっぽんてんさいせいとうかぶしきかいしゃ）
本社所在地	〒108-0073 東京都港区三田三丁目12-14 ニッテン三田ビル
代表者	取締役社長 惠本 司
資本金	82億7千9百万円
従業員数	765名（連結）／620名（単体）
事業拠点	ビジネスセンター（北海道河西郡） 札幌支社（北海道札幌市） 芽室製糖所（北海道河西郡）、美幌製糖所（北海道網走郡）、士別製糖所（北海道士別市） 清水バイオ工場、清水紙筒工場（北海道上川郡） 総合研究所（北海道帯広市）
子会社	十勝鉄道(株)（貨物自動車運送業、倉庫業、自動車整備業ほか） スズラン企業(株)（スポーツ施設、書店営業、石油類販売ほか） ニッテン商事(株)（食品卸売業） サークル機工(株)（農業用機械器具の製造販売） 士別スズランファーム(株)（農産物の生産・販売）



北海道寒冷地農業の振興と国内甘味資源の確保に寄与する

砂糖の安定供給を通じ、食文化の向上に貢献

新しい時代の変化に対応し、経営の多角化を図り、社業の安定発展を期す

社会に貢献できる企業に

当社は、国内での砂糖自給体制の確立と北海道の開拓推進を図るため、1919(大正8)年に創立されました。

以来、常にてん菜糖業のパイオニアとして、「開拓者精神を貫き、社会に貢献しよう。」の社是のもと、国内甘味資源の確保と北海道寒冷地農業の振興に努めてまいりました。



砂糖事業・不動産事業を基盤として、多角化を推進

砂糖事業

- ・当社は、てん菜(ビート)から砂糖(ビート糖)を製造し、販売しております。
- ・他に輸入粗糖から精製糖を製造販売しています。

食品事業

- ・てん菜の糖液から砂糖を取ったあとの糖蜜を利用して製菓製パン用のイーストやオリゴ糖を製造
- ・てん菜に含まれるラフィノース、ベタイン、食物繊維などを抽出して販売

飼料事業

- ・てん菜の繊維分を、ビートパルプとして牛用の飼料として販売
- ・ビートパルプにとうもろこし等を配合し栄養価を高めた配合飼料を販売。

農業資材事業

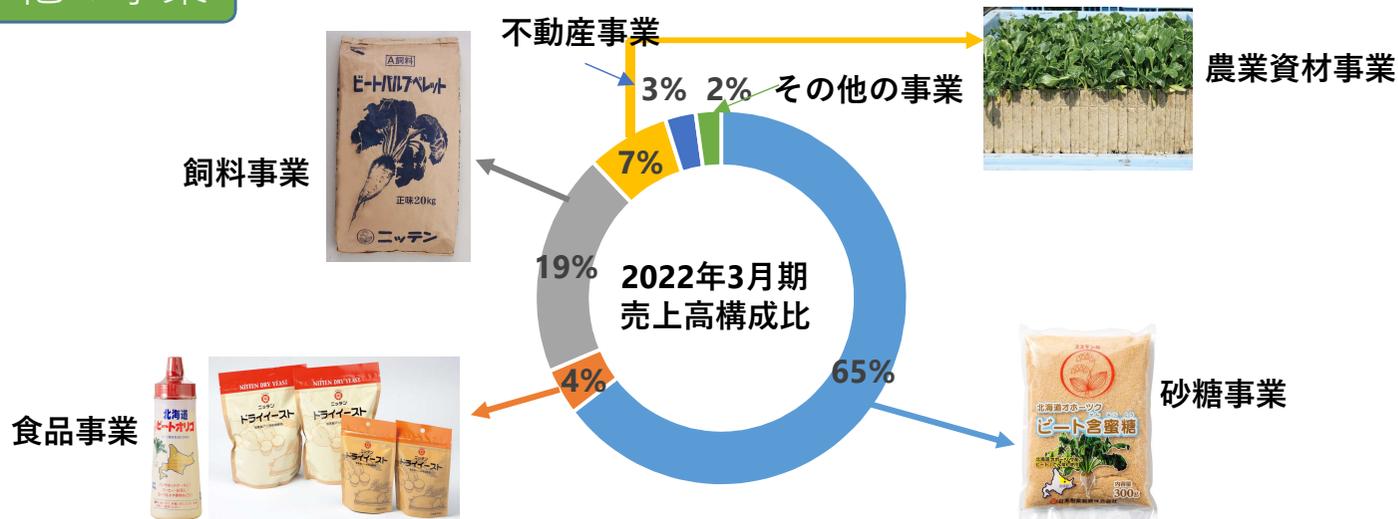
- ・てん菜の栽培技術を活かした、農業用資機材を販売しています。

不動産事業

- ・保有不動産の有効活用から始まり、投資物件も手掛けています。

その他の事業

- ・てん菜の運搬に必要なトラック輸送や、配合飼料の運送をしています。





砂糖事業

●事業概要

北海道、西日本でお馴染みのスズラン印の砂糖を販売しております。
業務用の砂糖を大手菓子、飲料メーカー等に販売しております。
国産で高品質の砂糖を安定的に供給できるのが当社の強みです。



※季節性に関する説明

ビート糖の製造は10月にてん菜（ビート）を収穫してから、翌年5月にかけて砂糖を製造いたします。
第三四半期決算期末において仕掛中のたな卸資産が計上されますが、砂糖の売値が下がった場合、
たな卸資産の評価損を計上することになるため、年度により第三四半期の営業損益が悪化する場合があります。

【事業環境】

【国内外の状況】

日本で消費される砂糖の約6割は輸入されております。
約3割が北海道で製造されるてん菜糖（ビート糖）、約1割が沖縄、鹿児島で製造される甘蔗（サトウキビ）糖です。
当社は北海道で製造されるビート糖の4割程度のシェアがあり、
また豪州、タイ等から粗糖を輸入し精製した精糖も製造販売しております。
ビート糖、精糖合わせ日本で消費される砂糖の1割強を当社で供給しております。
（※砂糖は植物に含まれるショ糖を純粋な形で取り出した天然の食品です。ビート糖でも甘蔗糖でも製品に差はありません。）
（※ビート糖、甘蔗糖の生産量は年度により変動します。当社の製造販売するビート糖には精糖の原料となる原料糖を含みます。）

【当社の状況】

当社は北海道の十勝、オホーツク、道北、道央地方の農家の方に原料てん菜を栽培していただき、収穫されたてん菜から砂糖を製造し販売しております。
2021年産の原料てん菜による製糖作業は10月中旬より開始し、5月5日に終了いたしました。



食品事業

●事業概要

ビート糖の副産物である糖蜜を活用し、イーストを製造・販売しております。
日本でドライタイプのイーストを製造しているのは当社だけです。
また、てん菜に含まれる有用成分を抽出した各種食品素材（各種オリゴ糖、ベタイン（アミノ酸の一種）、食物繊維等）を製造・販売しております。

<製品紹介> ニッテンイースト

糖蜜を栄養源として、純粋に培養したパン酵母を北海道清水町で製造しています。
製パン・製菓用に、高品質のパン酵母を用意しております



飼料事業

●事業概要

てん菜に含まれる繊維質であるビートパルプは牛用の良質な飼料になります。
当社では、これにとうもろこし等を配合し栄養価を高めた牛用の配合飼料を販売しております。
当社の配合飼料はイーストやオリゴ糖を配合した機能性のある飼料を特長としております。



※季節性に関する説明

ビートパルプの製造が10-3月ごろであり、この時期の出荷が多くなります。

<製品紹介> ヨーデル

国産ビートパルプ等のシンプルな原料に、糖蜜を加え、嗜好性を高めています。
イースト菌が第一胃内の細菌の働きをサポートし、牛本来の能力を存分に発揮できます。





農業資材事業

●事業概要

育苗用の資材及び関連する機材等を製造・販売しております。

主力の紙筒はてん菜の収量増を目的に約60年前に自社で開発した移植栽培用育苗鉢で、現在は野菜・花卉・林木等多様な作物に利用されています。

育苗資材はプラスチックを用いた資材が多い中、特殊加工された紙製の紙筒は環境問題から注目されています。また、移植作業の省力化が高く評価され、播種機材や移植機材を含めて国内だけでなく海外に販路を広めています。

※季節性に関する説明

農業資材事業については育苗用が中心のため季節性があります。
天候等さまざまな要因により出荷時期がずれる場合があります。

製品紹介<トラクタ直装ひっぱりくん>

チェーンポットで育苗した苗を移植する簡易移植機「ひっぱりくん」をトラクタの後部に接続することで、移植作業が省力化できます。





不動産事業

●事業概要

東京都、北海道等でオフィスビル、商業店舗等の賃貸をしております。
帯広市の旧製糖所跡地の一部を再開発した地区（約17万㎡）は、道東で最大規模の複合商業施設となっており、地域の皆様の暮らしに貢献しております。



その他の事業

●事業概要

子会社十勝鉄道(株)は、農作物や飼料等の運搬により十勝の地域経済に貢献しております。
子会社スズラン企業(株)はガソリンスタンド、ボウリング場、書店を経営しており、地域の皆様の暮らしに貢献しております。

※季節性に関する説明

農作物の運搬の多い10-12月に貨物輸送の売上が増加します。
ただし連結会社に対する売上については連結上消去されます。

スズラン企業株式会社<宮脇書店 帯広店>

帯広市稲田町南8線西10-1イトーヨーカドー帯広店2階
文具、雑貨を販売する「Style F (スタイル エフ)」を併設しています。





過去5年間の業績推移

30

- ・ 当社グループは、売上高経常利益率を経営指標として設定し、目標とする売上高経常利益率を4.0%としております。

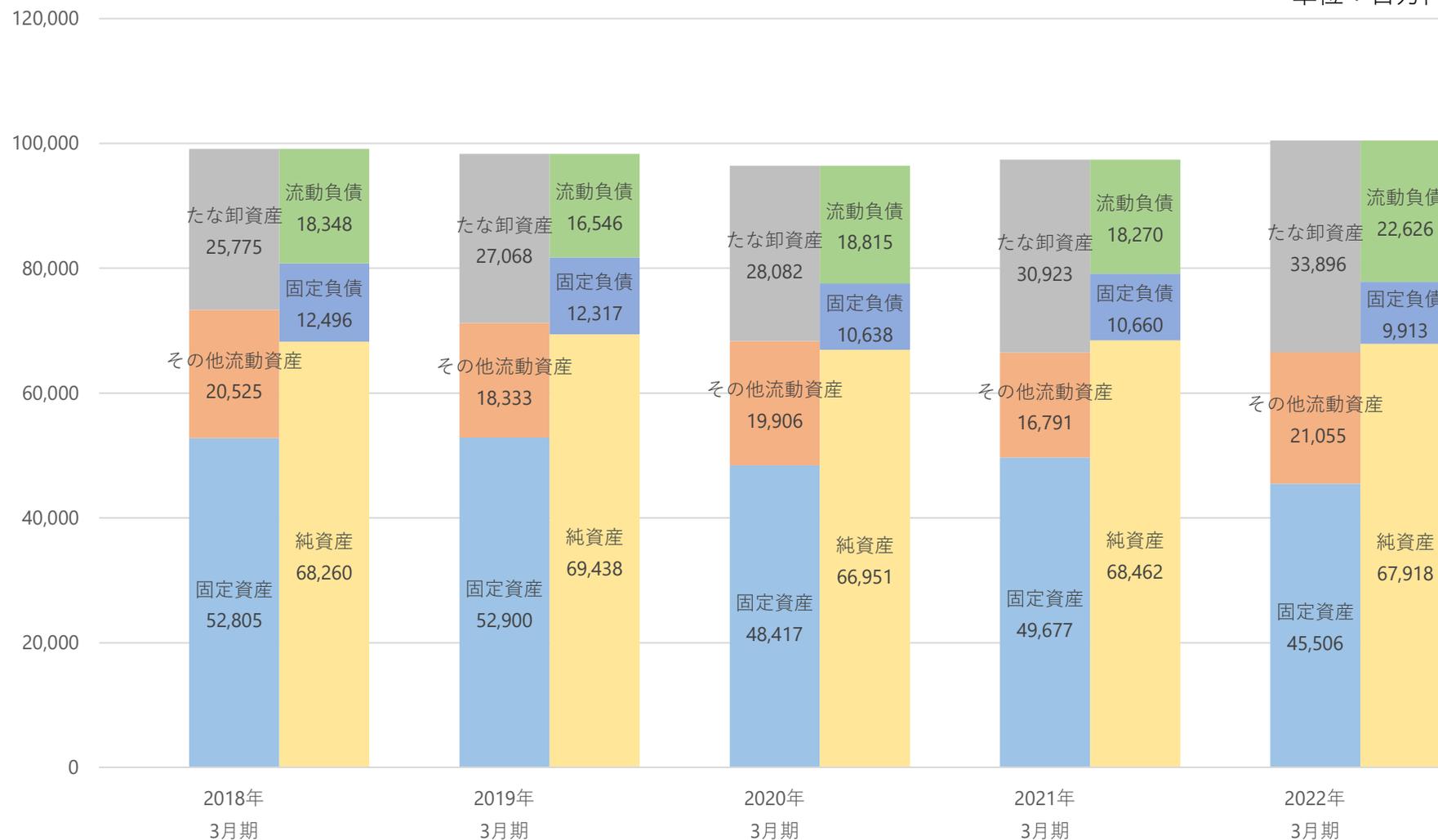
単位：百万円

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
売上高	58,895	57,997	57,021	54,792	58,492
経常利益	1,983	2,037	2,085	2,349	2,818
当期純利益	1,223	1,324	1,340	1,642	1,975
純資産額	68,260	69,438	66,951	68,462	67,918
総資産額	99,106	98,302	96,405	97,392	100,458
1株当たり純資産額	4,821.55	4,892.67	4,714.90	4,886.11	5,037.45
1株当たり当期純利益額	86.47	93.37	94.44	115.88	141.76
売上高経常利益率	3.4%	3.5%	3.7%	4.3%	4.8%
自己資本比率	68.9%	70.6%	69.4%	70.3%	67.6%
株主資本利益率（ROE）	1.8%	1.9%	2.0%	2.4%	2.9%
売上高のうち砂糖事業の占める割合	67.8%	66.1%	66.2%	64.5%	64.6%



連結貸借対照表の推移

単位：百万円



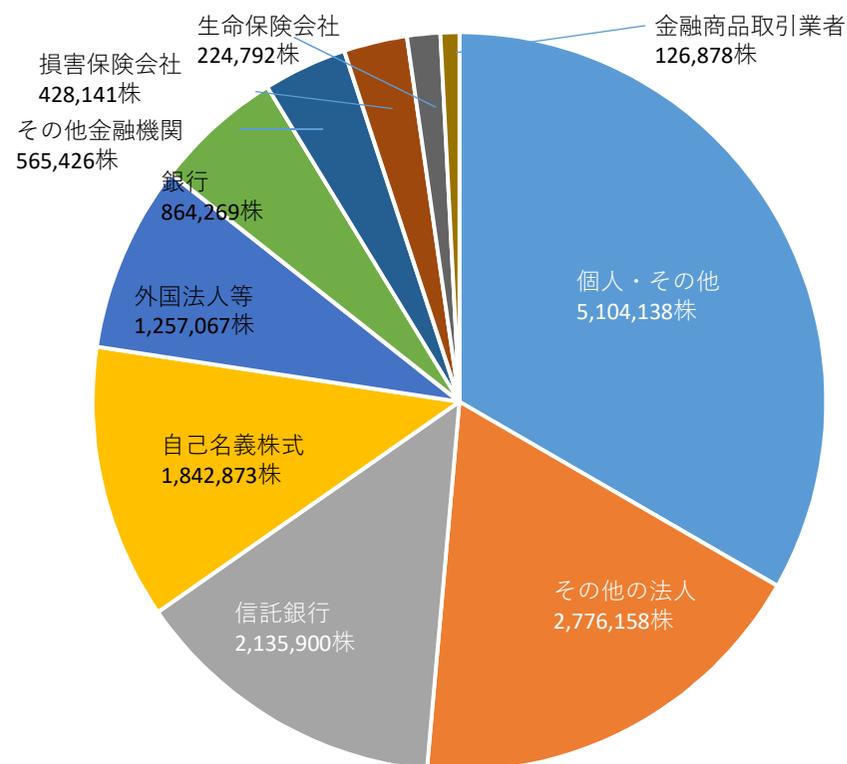
※てん菜糖製造は10月～5月ごろに行われるため、3月末のたな卸在庫が膨らみます。



大株主の状況

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,293,300	9.59
明治ホールディングス 株式会社	1,133,845	8.41
ニッテン共栄会	979,488	7.26
株式会社 日本カストディ銀行(信託口)	529,900	3.93
農林中央金庫	514,926	3.82
東京海上日動火災保険 株式会社	428,141	3.18
株式会社 みずほ銀行	365,083	2.71
NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社	320,288	2.38
DM三井製糖 ホールディングス株式会社	265,300	1.97
スズラン持株会	253,356	1.88

株主構成分布状況



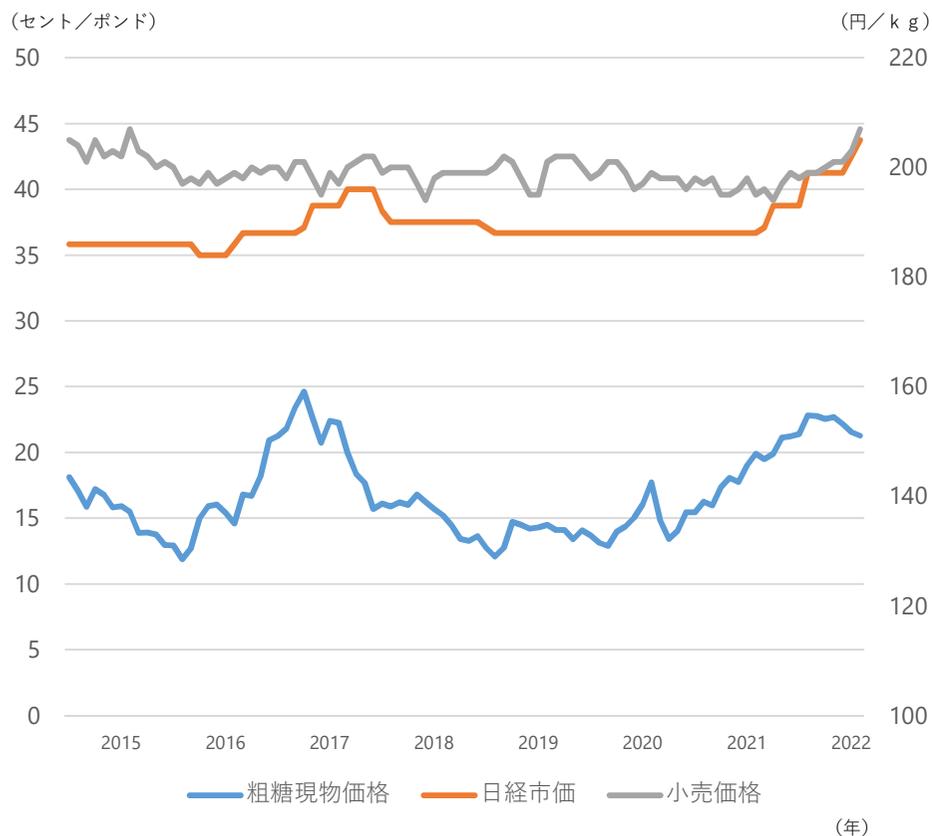
※当社は自己株式1,842,873株を所有しておりますが、上記大株主の記載からは除外しております。

※持株比率は、自己株式数を控除して算出しております。



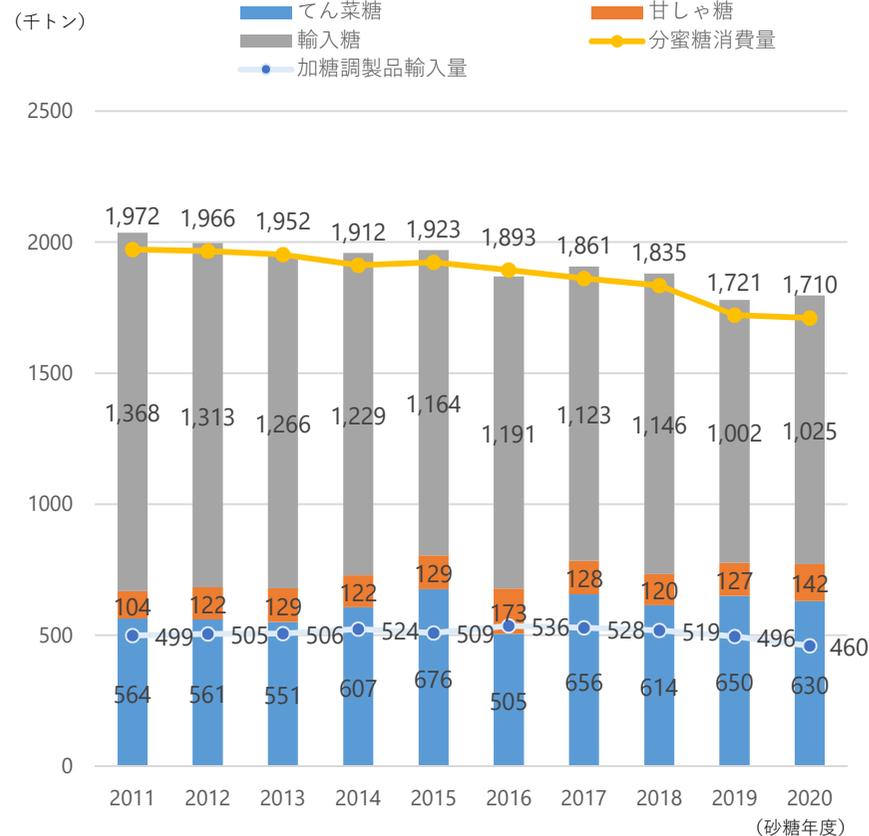
砂糖市場の推移

2014年7月～2022年2月



注1：小売価格は、総務省統計局調べ。
 注2：日経市価は、日本経済新聞の市中相場（東京、上白、30kg大袋入り）の価格（消費税抜き）で、各月の平均値。
 注3：粗糖現物価格は、東京商品取引所・大阪堂島商品取引所調査の粗糖現物価格（月平均価格）

砂糖消費量の推移



※砂糖年度とは、当該年の10月から翌年の9月までの期間

農林水産省「砂糖及び異性化糖の需給見通し」より当社作成

本資料は、作成時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして実際の業績等はこれらと異なる可能性があります。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害につきましても当社は一切責任を負わないことをご承知おきください。

本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

【お問い合わせ先】

日本甜菜製糖株式会社
管理部管理課
soumutky@nitten.co.jp